

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Meng Bo

出身地：中国・西安

所属：アジア経済研究所開発研究センター

日本滞在：1996年10月～

「タダ」より高い物はない

孟 渤

中国で交通専門の大学に入学したため、四年生の時に大学の自動車教習所で運転免許が取れた。だから運転には自信があった。だが、来日前に「絶対に車に乗っちゃ駄目だよ」と交通学専門の指導教官に注意された。そこまで心配してくれるのは有難かったが、少し不満に思ってしまった。

それから三年後、日本のある大学に留学した。研究室は山の上で、交通は不便だった。研究室のある先輩の就職が決まったため、中古の原付をその先輩からタダでもらえた。タダだったので、先輩には感謝の気持ちで一杯だった。それからは学校へ行く山道の通学バイク軍団の一人になった。しかし、不幸にも風に乗る爽快な気分は長く続かなかった。交通事故のためである。相手は暴走族の改造車、こちらは路肩まで一〇メートルほど飛ばされ、地面に叩きつけられ、肩を複雑骨折してしまい、全治半年の大けがとなった。その相手のひき逃げ犯は未だ捕まらないが、幸い頭の後遺症は残らずに済んだ。但し、両親に包帯だらけの姿を見せたくなかったため、その年の正月は祖国に戻らず一人寂しく過ごした。病院に駆けつけた同じ西安出身の友達「バイクは危ないぞ」と言った。彼の理屈は単純明快であった。バイクに乗る際、鉄

は肉体に包まれる。車の場合、逆に鉄は肉体を包んでいる。つまり、バイクに乗ることはイコール命取りということだ。バイクは中国語で「三快車」と言われ、乗り慣れるのは速い。スピードも速く、しかも死ぬのも速い。西安でバイクの免許を取った一学生二〇人のうち、一〇年後に生きているのは一人もないそうだ、と彼は語った。

退院後、車好きの私は原付を人に譲らず廃車にし、日本人の友達から中古車をタダで手に入れた。さすが車大国日本、車をタダでもらえたことに感激し、かなり節約ができたとも思った。しかし、「タダより高いものはないよ」と後の指導教官に注意された。間もなくその通りとなったのだ。重量税、保険、車検、すり減った冬タイヤの交換等、かかった費用は半端ではなかった。半年後、その車で七〇キロのスピードを出した時、車内に焼け焦げた臭いが充満した。修理に出したが、冷却水漏れのため部品交換が必要で、四万円かかると整備士は言った。必死に「中国式価格交渉」をした結果、一万円負けてくれた。この自慢話を指導教官にした際、その教官は「部品の取り寄せは二万円以上で、整備工場で仮に二人の整備士が一日仕事するなら、人件費だけで二万円かかる。その人たちは給料で家

族を養っているから、日本ではしつこい値引交渉はよくない」と言った。私はこの厳しい事情を知り、胸を打たれる思いがした。中国市場での価格交渉はごく普通の商習慣である。たとえ値段が付いても半額以下の値引きは不思議ではない。日本ではサービスの質を落とさない限り、値引きの余地は殆どないから、無理矢理値引要求をすると、真面目な職人の仕事に対する自尊心を傷つけることになる。それを最後に、日本での「中国式価格交渉」をやめた。

日本での車生活に限らず、他にも私には反省すべきことが数多くある。どんなトラブルでも、決して運がよくなかったと安易に思い込まない方がいい。人は一時的にタダで何かを手に入れることができるが、結果的にそれと同じ、あるいはそれ以上の対価を払うことになると思う。また、「郷に入れば郷に従え」とよく言われるが、単なる諺としてではなく、背景にある理屈を深く理解しない限り、新たな環境へ適応しようとする行動は見せかけに過ぎない。残念ながら、同じミスを起こした、起こしている、起こそうとする留学生はまだまだいるのではないか。

(アジア経済研究所開発研究センター／
原文日本語)